

## 国際金融センター香港の金融機関を活用するメリット 欧米型の法・規制を前提とした金融・為替制度 貯蓄性の高い米ドル建て保険加入は海外在住者の特権!

### ■ 国際金融センター香港の金融機関を 活用するメリット

香港は1997年7月1日に、イギリスから中華人民共和国へ返還されたことによって、香港特別行政区政府が発足しました。香港は中華人民共和国において省や直轄市と同等の地方行政区とされます。香港の面積は、香港島・九龍半島・新界および諸島部を含めて東京23区の約2倍程度、2021年時点香港の人口は739万4700人ですが、香港行政長官の林鄭月娥氏は2021年施政報告の中で、深圳に近い香港北部に大阪市に匹敵する250万人都市を建設する計画を発表しました。深圳西部と香港北部を結ぶ新たな越境鉄道の建設も

計画されており、20年後には東京23区を上回る1000万人都市となる見込みです。今後も大湾区プロジェクトによる中国大陸との経済的結びつきは強化されていくと思いますが、その一方で、香港では中国本土と異なる行政・法律・経済制度（一国二制度）の維持が認められています。香港の一国二制度を巡って、近年、香港を取り巻く様々な国際情勢がありますが、そうした情勢が香港の金融市場に与える影響は限定的なものであり、今後も香港は一国二制度のメリットを生かして、アジアの中の国際金融センターとしての機能を維持していくことになるかと思えます。その理由を以下に記します。



### ■ 欧米型の法・規制を前提 とした金融・為替制度

一国二制度となっている香港・中国間には物理的なボーダーが存在し、金融や為替制度も全く異なります。香港には中国内外の金融・ビジネス関係者が公平で非政治的な取引を行うことのできる欧米型の法・規制制度があり、法の支配、有能な規制当局、低い税率、自由な資本移

## 人生100年時代の年金対策は海外在住の今がチャンス!

個人年金・貯蓄保険・学資保険の個別相談会は随時開催中!

HPの「個別相談申込」  
もしくは「QRコード」をスキャン

[www.kenshin.com.hk](http://www.kenshin.com.hk)



代表:木津英隆



**Kenshin**  
Asset Consulting

E-mail:[kitsu@kenshin.com.hk](mailto:kitsu@kenshin.com.hk)

WhatsApp:9062-0532 WeChat/LINE: hidekitsu1



香港系大手IFA(独立系ファイナンシャルアドバイザー)に所属。香港の主要保険会社を全て取り扱い可能。ご相談無料ですので、お気軽にお問い合わせください。

動、英語の使用といった面で、香港は中国本土のライバル都市と比べて大きな違いがあります。上海市場と深圳市場は、以前に比べれば利用しやすい市場になったと言われますが、投資家は香港における法的保護のほうに依然望ましいと考えるため、上海市場でさえ、近い将来に香港の役割を果たすことはできないだろうと言われてしています。香港の代替地が存在しない限り、世界の金融センターとしての香港の役割を中国政府が安易に手放すことは対外政策的に想定できず、香港の金融面での優位性は今後も継続されることになるかと思えます。

### ■ 香港金融市場への資金流入が続く

香港金融管理局(HKMA)の監督の下、額面20ドル以上の香港ドル紙幣は香港上海銀行、スタンダードチャータード銀行、中国銀行の3民間銀行によって発行されています。香港ドルは1983年から米ドルに対するペッグ制を採用しており、もともと1US\$=7.8HK\$の固定レート制になっていました。2005年から1US\$=7.75~7.85HK\$間で変動する目標相場圏制度が導入されておりますが、香港の外貨準備高は香港ドルの総発行量の2倍超もあり、近年は香港金融市場への資金流入が続いています。香港は中国本土外で最大のオフショア人民元市場でもあり、中国における海外から

の直接投資(FDI)の受け入れ額の8割は香港経由となっています。その一方、中国本土における人民元市場の自由化には相当な時間を要するため、香港は海外から中国への資金の玄関口としてのゲートウェイ市場としての役割も持ち続けることとなります。

### ■ 貯蓄性の高い米ドル建て保険加入は海外在住者の特権!

香港の国庫には約1兆6千億円の余剰資金(香港市民一人当たり213万円)があり、過去の金融危機時においても香港内の銀行預金は全額保護されていることから、香港の金融機関は海外の投資家からの信頼が厚く、個人投資家が最も安心して資産運用できる環境が整っていると言えます。香港の保険商品は、米ドル・香港ドル・人民元の3通貨で運用することができますが、米ドル建て保険と比較した場合、日本国内で購入できる米ドル建て保険よりも最低利率が高くなります。例えば、日本国内N保険が提供する米ドル建一時払終身保険に50歳男性が加入する場合、一時払い保険料US\$10万に対して、15年後の最低利率はUS\$10万888となります。一方、香港のS保険が提供する一時払い個人年金プランに同じ条件で加入する場合、15年後の最低利率はUS\$12万1411となります。香港の大手保険会社の格付けがJ国債の格付けよりも高いことも考慮すると、大切な資金はタンス預金よりも香港の保険会社で長期運用する方が、安全性が高いと言えます。

〈記事提供〉  
謙信アセットコンサルティング  
TEL:(852) 9062-0532  
Web:www.kenshin.com.hk

